

施策コード	1-3
-------	-----

中心所管課	長寿課
関連所管課	健康推進課／保険年金課／市民病院事務局

第1章	笑顔つながる幸せに暮らせるまちづくり -健康・福祉-						
基本施策名	3 高齢者福祉						
総合計画の目標指標							
指標名	単位	策定時	実績値		目標値		SDGs独自指標
		R2	R3	R4	R7	R12	
在宅医療の実現が可能だと思う人の割合	%	21.2	-		26.0	30.0	
要支援1、2の介護度の維持(要支援1)	%	69.4	59.5		70.0	70.0	
要支援1、2の介護度の維持(要支援2)	%	77.8	71.1		80.0	80.0	
手助けやボランティアをしているまたはしたい人の割合	%	26.4	-		30.0	35.0	
認知症の介護に関する不安や自分が認知症になることへの不安が軽減できている人の割合	%	41.3	-		65.0	70.0	
60歳以上が「住みやすい」と実感している割合	%	38.7	-		42.0	44.0	

施策の内容(主な取組)		
単位施策名	実績・成果	今後の方向
1 介護予防の取組支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア推進会議介護予防推進部会:年3回実施</li> <li>・地域活動の場「通いの場」等において、フレイル予防(食事・口腔・運動)について健康教育等の実施:14箇所、21回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者質問票を活用し、高齢者の現状を把握するとともに、フレイルリスクの高い人を早期に発見し、支援につなげる体制の整備を進める。</li> <li>・高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施のポピュレーションアプローチとして、「通いの場」を活用したフレイル予防に関する健康教育などを専門職及び関係機関と連携して実施する。</li> </ul>
2 地域で支え合う仕組みづくり	地域での支え合い活動について話し合う「地域支え合い座談会」を市内11地区で計40回開催し、延べ846人の参加があった。	地域の困りごとや社会的な課題などを高齢者が中心となって支える体制を構築し、加えて社会参加による高齢者の介護予防の促進を図る。
3 安心して在宅医療・介護を受けられる体制づくり	切れ目のない支援体制構築のため、多職種間での連携強化を図るための連携ハンドブックを作成した。一定の要件を満たす後期高齢者医療制度の被保険者に対し医療費の一部を支給した。	多職種間で顔の見える関係性が構築できるよう多職種研修会等を実施し連携強化・支援体制強化を図る。安心して医療を受けられるよう、他制度との調整を行いつつ医療費助成の取り組みを進める。
4 認知症になっても安心して生活できる地域づくり	初めてVR体験会を実施するなど、認知症市民向け講演会を実施し、一般市民への啓発に努めた。また、高齢者見守りサポーターを20名養成した。	認知症の啓発活動として、9月の世界アルツハイマー月間に合わせて、VR体験会を含め各種催事を行う。
5 安全で住みよい環境づくりの推進	災害時等での助け合いの仕組みとして電源あんしんネットワークを構築し登録者数の増加を図った。地域での助け合いの仕組みとして避難行動要支援者登録制度を開始した。	助け合いの仕組みを周知し、登録者数の増加を図る。また、高齢者のニーズに応じた住宅や生活環境の充実を図る。

個別計画の目標指標								
計画名	蒲郡市第9期高齢者福祉計画				計画期間	令和3年度～令和5年度		
指標名	単位	策定時	実績値				目標値	
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R12
後期高齢者健診の受診率	%	24.1	23.0				40%以上	
シルバー人材センター就業会員数	人	723	786					
東三河ほいっぷネットワーク蒲郡市の年間患者記事投稿数	件	1,797	1,786					
認知症サポーター養成数	人	98	346					
電源あんしんネットワーク登録者数	人	24	42					

主要事業の実績評価					
施策番号	事業名	事業費(千円)		実績(R3年度)	今後の方向
		R3(決算額)	R4(予算額)		
		人工			
1	高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施(ポピュレーションアプローチ)	14	42	通いの場で、高齢者質問票を活用し、参加者が自らの状態を把握でき、フレイル予防ができるよう健康教育及び個別支援が必要な方には個別指導を実施。	高齢者質問票の結果に合わせて健康教育の内容(口腔・食事・運動)を検討しながら、専門職や関係機関と連携して実施。
		1.0			
2	地域支え合い座談会	15,888	23,203	コロナ禍の影響により開催を中止する期間もあったが、それ以外は定期的に実施ができ、地区によっては成果も見え始めている。	高齢者のみならず、子どもや障がい者も含めてその地域の課題を解消する仕組みの構築を目指す。
		0.25			
3	後期高齢者福祉医療費給付事業	200,256	239,623	一定の要件を満たす後期高齢者医療制度の被保険者に対し医療費の一部を支給した。	高齢者が安心して医療を受けられるよう、他制度との調整を行いつつ医療費助成の取り組みを進める。
		0.43			
3	在宅医療・介護連携サポートセンター事業	11,060	11,622	連携ハンドブックの作成、多職種研修会や市民向け地域包括ケア研修会の実施等在宅医療・介護の体制づくりを行った。	地域資源の見える化や医療や介護人材の不足解消に向けた取り組みの実施。
		0.4			
4	認知症VR体験会	394	443	コロナ禍での開催となり欠席者も出たが、31名が受講した。	世界アルツハイマー月間である9月に同様の企画を実施。
		0.1			
4	高齢者見守りサポーター養成	0	125	31名申込で延68名が受講。20名がサポーター登録。	新規サポーターの養成及びフォローアップの実施。
		0.1			
5	電源あんしんネットワーク事業	0	0	医療機器メーカーやケアマネジャーへの周知により登録者が増加した。また、実際の医療機器を使用し避難訓練を行った。	市民病院との連携体制の強化や夜間の訓練など災害時等の支援体制の強化を図る。
		0.1			

総括評価	成果・課題	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、教室や研修会等実施が難しく計画通り進まない部分もあったが、工夫して事業の実施が出来た。しかし、外出自粛等が高齢者に与えた影響は大きく今後を注視する必要がある。
	今後の方向	高齢者が活躍する場の提供や外出の機会を作る等、要介護者を増やさない取り組みを行っていくことが重要となる。また、地域での見守り等支え合いの仕組みを構築していく必要がある。